

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム イーストサイドおぐら
(ユニット名)	壱番館
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市笠之原町7329-5
記入者名 (管理者)	本白水 忍 (管理者)
記入日	平成21年4月11日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	管理者と職員との理念の共有という観点から、今後は朝礼時に理念と一緒に読み上げていく、又各スタッフのネームに名刺サイズくらいの大きさを理念を入れ込み、常に見れるようにし、理念を深めていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域の方々における取り組みとして、まずは運営推進会議を通して、地域密着事業としての理念及び当事業所としての理念説明をし、理解を求めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	ご近所の方がいつでも気軽に立ち寄れるホームになるようスタッフ内で話し合いの場を設けていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域で行われる行事にまずは一度参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の暮らしに関する話し合い及び取り組みと言う点においては今現在、特に実施していない	○	当ホームとして地域に対して何が出来るか、スタッフで話し合いを設けて今後検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての自己評価・外部評価ということもあり、実施する意義において全スタッフで共通理解できていない。	○	今回の自己評価・外部評価を基に、まずはスタッフ全員で意義を理解し、今後スタッフの協力をもとに、さまざまな取り組みができるようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施している運営推進会議で毎回、活動状況の報告を行っている。参加している方々からも感想や意見を頂いているが、その場だけでの報告になってしまっていることが多い	○	さまざまな意見等に対し取り組みを行い、次回の運営推進会議等で、報告が出来るようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議だけではなく、報告や運営面に関する相談をそれぞれ尋ねて行ったり、電話連絡をしたりという取り組みを行っている。	○	市役所とは今後も必要に応じ、相談していく等、連携を更に深めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修へ参加し制度について学習しており、他の職員へも伝達できるように報告書や会議の中で発表している。現利用者の中には活用されているご利用者はいない。	○	今後、スタッフも成年後見制度に関する勉強会を設けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加し学んだ事をミーティングや報告書にて他の職員へ伝達している。	○	今年度、一度高齢者虐待防止に関する勉強会を開催し、スタッフの意識を深めていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に重要事項説明書にて、契約の締結・解除を説明し、同意を頂いている。1回の説明で納得いかない場合は再度説明しますと伝えている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の思いはその都度傾聴している。改善できる事項はすぐに取り組んでいるが、内容に応じてはすぐに改善できない事柄はその内容を説明し解決につながるよう努力している。又、ご意見箱を設置して意見をいつでも出せるように配慮している。</p>	<p>○</p> <p>ご意見の内容に応じて、ホーム全体で話し合う機会を設け、対応していきたい</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に診察時の状況・普段の様子などの報告をしている。急な体調変化に対しては、電話にて連絡している。職員の異動等は運営推進会議で報告している。</p>	<p>○</p> <p>遠方にいらっしゃるご家族もいる為、定期的に状態等の報告ができる方法を考え、実施させていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族へは入居時の説明の際、苦情等に対する内容説明をし、ご意見を頂けるようにしている。玄関口にも苦情・要望等に関する内容を掲示し外部の方々にも分かるように掲示している、又玄関にご意見箱を設置している。又ご意見を頂いた場合はスタッフへ周知し、ご家族等の思いを反映できるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>ご意見の内容に応じて、ホーム全体で話し合う機会を設け、対応していきたい</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回ホーム全体の会議・各ユニットごとの会議を実施しており、個々の意見を表出できる場を作っている。業務内容については随時意見を反映し、改善に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>今後も定期的に会議を実施していく</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>イベントや診察など利用状況に応じた勤務調整を実施している。日常の職員配置に関しても法定人員より多く配置している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動・離職はあるが、できる限りご利用者の不安、ダメージがでない様、十分配慮し話をする場を作っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修においては法人内で主催される研修会(外部講師による研修等)への参加やグループホーム内での月に1回の勉強会実施にて学習している。その他個々にて介護福祉士主催の研修や地域内での認知症に対する講習などへも参加し、専門性を向上している。	○ 主に新入職者を対象とした研修プログラムを作っていくたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度は県グループホーム連絡協議会と大隅地区グループホーム連絡協議会へ会員加入し、研修会等への参加や他事業所との情報交換、一般の方々向けの認知症セミナーにおいては開催にあたり、協力(手伝い)を行った。	○ 今年度も連絡協議会へ加入し、サービスの質の向上や同業者との連携を深めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	いつでもスタッフからの相談に応じ、必要な助言等を行っている。又体調が悪くないか等、出来る限り直接聞いたり、報告をもらったりしながら、状態把握に努めている。	○ ストレス軽減につながるイベントを実施させていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフごとに目標管理シートを設け、各自で目標を立て取り組んでいる	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでは、本人、家族との面談により両者の意向を確認し不安など取り除いていく。入居後職員は会話しやすい雰囲気の中で信頼関係を築けるよう努めている。利用者との会話には耳を傾け常に何が言いたいのかを聴き取り職員、家族と協力し解決していけるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時は、相談者の身になって考え最善を尽くし不安を取り除き信頼関係を築いている。入居後も家族の相談に耳を傾け安心していただけるよう努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の相談を数件頂いてる中で、本人・家族の状況を伺い当法人内に限らず、他のサービスについても説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に来所出来る方は見学して頂いている。緊急的な場合や家族・本人の状況に応じては、見学できない方もいらした。その際はパンフレットや職員が面会して説明を行った。	○	ホーム内で数時間でも過ごして頂けるようなホーム体験等の取り組みをしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者から思いもしないような事を言われたりされ、日々教えて頂く事が多く感じる。ご利用者からのありがとうを当たり前と思わず、互いが互いを必要と感じる関係が築けるよう日々努力している。	○	空いた時間は出来る限り利用者との会話に徹し、互いの信頼関係を深めていきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を大切にし、家族の協力なしでは成り立たない事を感じている。関係性が深まるよう些細な内容でも報告・相談を行って行くよう日々努力している	○	利用者のご家族が遠方にいる方も数名いる。こまめに状況報告を行い信頼関係を深めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	より良い関係が維持できる様に、イベントへの参加を呼びかけ、互いに楽しめる時間を設けたり、面会時に家族だけ話したい時は居室にて過ごせる様に配慮している。	○	今後は、イベントの計画段階より参加して頂き、一緒に活動ができる様に取り組んで行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームだけではなかなか出来る範囲が限られているが、ご家族や知人の方がいつでも遊びに来やすい環境作りを常に心掛けており、実際多くの面会者がある。	○	馴染みの場所を確認し、出向いていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団生活なので出来るだけ楽しく過ごせる様に、職員が利用者間を取り持てるように配慮しているが、利用者間の性格の不一致等によるトラブルはある。その際は座席配置やスタッフの声かけ等で互いが不快な思いをしないように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されたご利用者とは、こちらからご自宅に出向き近況を伺うことをしたり、病院等で利用者はもちろんご家族とも再開した際にはお話をさせて頂き、その後の様子などを伺ったりしている。継続的には実施できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きな事・したい事は日常の会話やご家族より伺っている。すぐに実現できる事は行っているが、出来ない事は職員間で話し合い、計画を立てて実現に向けて努力している。	○	一人ひとりの意思が尊重でき、出来るだけその人らしい生活が送れるように支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や健康状態・趣味等は家族・相談員や前施設より情報収集している。又入居時にもご家族・本人より伺っている。入居後は普段の会話の中で本人より以前の生活状況を伺い、これまでの生活が継続できる様に支援している。	○	以前と変わらぬ生活に少しでも近づけることができる様に可能な範囲で支援していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活の中で一人ひとりが出来る事を一緒に行い、それぞれが出来る事を支援し、可能性を探りながらどうすればよいか、日々努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者様やご家族様より思いや意見を聞き、反映させるようにして介護計画書を作成している。本人の意見が聞けない時はご利用者同士の会話や行動の中で発せられた言葉を汲み取るようにしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況を確認し合い、期間が終了する前に見直しをしている。状態が大きく変化したり、認定結果に変更があった場合は終了前でも検討・見直しを行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの統一のために利用者ごとの状態に応じた支援の方法を個別に記録して実践している。大きく状態の変化が発生した場合はケアプランの見直しをしている。又個人のケア指示(連絡)簿を作り、ケア方法に関する情報共有を行っている	○	介護計画に基づき、具体的に行う細かなケア内容を作り、計画内容に沿った日々のケア実践に活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特に医療面においては病院や看護師等との連携を図り、病院受診への対応や緊急時への早期対応等、必要な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアにおいては1名、受け入れを行った、又職場体験として地元中学生が2名2日間受け入れ実施を行った。希望があればいつでも受け入れる様にしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他のサービスを必要という訴えや要望はないため行っていない。本人家族から要望や意向があれば、いつでも対応できるように努めている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への出席以外にも東部地域包括支援センターのスタッフと、必要あれば相談等できる体制を作っている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を重視し、定期的にかかりつけ主治医の診察が受けられるように行っている。又診察時は情報提供を行い、体調・精神面での助言、指導を受け適切な医療を受けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>現在式番館で実施されている臨床心理士の介入を壱番館でも実施できるように調整していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけに関しては、年上の方なので敬語を基本的には使っているが、会話の中で方言を使用する事も多く、つられて目上の方に対する表現で無くなる事があるので、互いに注意をし合っている。記録物は日常使用する為、取り出しやすい所に置いているが、他の書類は事務所内にて保管・管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	問いかけるように声かけし、本人が自分の意思で判断できるように判りやすい言葉を使用して接し納得して頂けるように説明している。それでも納得できない場合は、時間を置いたり人を替えて説明を行っている。	○ 元々の性格やペースが違う事を職員が理解し、声かけの仕方やタイミングを職員間で検討し、利用者のペースに合うよう観察しながら接していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の過ごし方は様々であり、本人の過ごしたい様にする時間と集団で過ごす時間を分け、本人の意思を確認してから援助するように努めているが、業務に流されてしまう事が多く本人のペースに沿った支援ができていない部分も多い	○ 業務優先でなく、利用者優先に気持ちをおいてケアを行ってきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々に応じて化粧や髭剃り等を行っている。自身で整容できない方は介助を行っている。散髪に関しては、美容院の出張サービスを取り入れている。本人の希望に応じた髪型になるように依頼している。パーマ等を希望される方に関しては、ご家族の援助のもと、馴染みの店に行かされている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託業者にて調理し、ホームにて皿に取り分ける形式で行っている。時折、利用者の意見を取り入れた昼食を作っている。食事の後片付けを体調等に応じて一緒に行っている。	ホームでの食事作りを定期的実施できるよう、今後検討・実施する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医の指示にて食事に制限がある方以外は、家族や本人より好きな物を伺い、可能な範囲で提供して。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的にトイレへ誘導してトイレでの自然排泄できるように心掛けている。声掛けの仕方を変えたり時間やタイミングを伺うなどして誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	拒否される方も中にはいるので無理なく時間をおいて本人のタイミングに合わせるように努めている。体調等に配慮して入浴の気持ちのよさを味わえるよう行っている。入浴日や時間帯においては日中の間で主とする曜日を事業所で決めて実施している(希望や体調等に応じて変更・追加もあり)状況である、順番は平等に順番を変更している	○	当日の体調不良や病院受診、スタッフ数の制限もあるが、可能な範囲での希望を踏まえ、入浴サービスを実施していく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の訴えに応じてベッドで休んでもらったりソファでくつろいで頂いている。こちらからも声かけして安楽な状態でいられるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全員出来ている訳ではないが、洗濯物たたみ・おしぼり巻き等1人ひとりの方の出来る事をやって頂き、自身が役に立つことの喜びやここで共同生活をしていると感じられるようなケアに努めている	○	入居者の意思をできるだけ尊重し家族の協力を得ながら外出、外泊、買い物などの機会を多くしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフはご利用者が金銭を持つことを理解しており、家族の協力と理解を得て、お金を所持したり使えるように必要に応じ支援している。	○	ご利用者によっては管理出来る出来ないはあるが、家族へ所持に対する理解を説明し、自己管理できる方へは必要な支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は屋外へ散歩に出かけたり、芝生にてお茶を飲んだり日向ぼっこをしている。ご利用者やご家族の要望に応じて自由に外出・外泊できている。	○	環境整備を見直し、屋外にテーブル・椅子等を設置できるよう検討し、屋外にでる機会を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を感じて頂く為に、バラ園や桜のお花見、季節に応じた花を見にドライブへ出かけられるように、計画を立て実施している。又ご利用者の要望に応じて外出をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙を書かれる方は少数だが、遠方の家族とのやり取りが出来るように支援している。電話の使用も要望に応じてかけている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	インフルエンザなどの感染性の高い病気の方以外は、自由に面会して頂いている。又次も来て頂ける様に面会者へ促している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケア方針で取り組んでいる。一部のスタッフで身体拘束に関する勉強会に参加している。	○	身体拘束に関する勉強会をし、引き続き身体拘束をしないケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず開放している。1人で屋外に出ようとする方がいるが、職員間で連携を図り同行して対応している。居室は換気の為、開放している。	○	開放感のあるホームにしていく為に、今後も引き続き職員同士で声をかけ合って取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	排泄(介助)の場合は戸を閉めたり、カーテンを閉めたりと配慮している、居室においては自分だけの時間が持てるよう配慮しているが、居室内での転倒も多く、本人に了解を頂き、一部空けて過ごす場合もある。職員間で連携を図り、目配り・所在確認をしながら安全の配慮に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物、有害な物危険なものは利用者の目に入るところに置かず、必要に応じて出し入れしている。今までに事故は起きていない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	病院内や外部での研修にできる限り参加し、知識の取得に努めている。行方不明発生においてはマニュアルを作成したり、時間での安否確認を行うなど、必要に応じた予防策を講じている	○	自室で過ごされる方もいるので訪室をこまめに行い大きな事故にならないように配慮していきたい。避難訓練等においては法的訓練以外にも自主訓練を実施させていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルにて対応を実施し訪問看護による看護師等との協力のもと、対応している。		定期的に、マニュアルを見直しや訓練を実施し、緊急時に備えたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の元で避難訓練実施を行っている。他に自主訓練も昨年行ったが、1度のみの実施であった。	○	自主訓練の回数を増やし、実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒を主に誤嚥など個々によって色々な危険性がある事の説明を行っている。それに対して予防はしているが実際起きたことや予防等も報告したり、話をしたりしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル、精神面の異変は記録に残し、朝・夕の申し送り等で情報伝達を行っている。又個々のケア指示簿の中に観察の統一方法やケアの方法等記入し、互いにスタッフで共有している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書を参照したり主治医や訪問看護、薬局の薬剤師より注意事項等の説明、助言を頂いている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘対策として水分補給、適度な運動、野菜などの食物繊維の摂取を促している。又看護師に確認し、薬の副作用の影響などの観察、便秘薬の調整を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後個々に声掛けし実施している。自己にてできない方へは介助や補助具を使用して口腔内の清潔保持に取り組んでいる。又週に2・3回義歯の方は入れ歯洗浄剤での消毒を行っている。	○	協力歯科医療機関との連携し、必要に応じて診察できるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者全てにおいて、食事摂取量は割合を随時記録し、水分は摂取量を測定している。管理栄養士が計算した食事を提供し栄養バランスに配慮している。個々の状態に応じた量・形態で提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染に関するマニュアルを作成し予防を行っている。感染後の対応も統一できるように職員へ伝達している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食の食材は栄養科で管理、調理してあるものを提供している。食器や調理用具は洗浄乾燥を行い清潔保持に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は日中開放し夜間は防犯の為施錠している。入り口には四季の花を置いて明るい雰囲気になるよう心掛けている。又必要な掲示(お知らせ等)も行っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	主として居室よりリビングにて過ごす時間が長いので壁に季節を感じられるような歌や貼り絵を施している。BGMで懐かしい演歌や童謡なども流したりしている。日が強いときにはカーテンを一時したりしながら、日々心地良く過ごせるように努めている	○	ご利用者様にも要望を聞き、心地良い空間を提供できるように一緒に考えていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置し一人で外を眺められるように自由に過ごせるようにしている。又テーブルの配置も工夫しながら、話が合う方や職員が間に入り、話を繋げるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持参して頂いている。特にホームで規制をかけず、入居後も必要に応じて随時持参して頂けるようご家族にも連絡を行っている。	○	車椅子利用者が多く、居室壁に洋服をかけるバーが高かった為、自らかけやすい様にバーを低くしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室やリビング・脱衣室に温湿度計を設置して室内の温度・湿度の調整を行っている。換気は起床後に窓を開けて空気の入れ替えを常時行っている。湿度が低い場合には加湿器を各居室に入れ調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカやリビング、浴室、トイレは手すりを設置し自立の補助となるようにしている。ベッドの手すりも個々の能力に応じて配置している。	○	他に必要な所がないか十分確認し、必要に応じて対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自身の事は出来るだけ自身ですて頂いている。失敗の中にはあるが自尊心を傷つけないように各スタッフで配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	芝生があるので日向ぼっこやお茶を飲まれたり犬と遊んだりしている。プランター内で花を植えたり、散歩や気分転換の目的で屋外へ出ている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・当ホームはご利用者・ご家族の希望に応じて車椅子ご使用の方でも常時入居の受け入れを行っております。健康管理には十分気を配りながらグループホームでの生活の援助を行っておりますが、体調不良発生した場合には、法人内にある小倉記念病院を中心に看護師等とも連携を図りながら早期対応に努めております。状態が中重度になっても当ホームでの生活を可能な限り送って頂ける様に、今後もスタッフ同質の向上を目指し取り組んでいきたいと思っております。